

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【有田振興局】令和5年度第3回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

令和6年2月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」の現地適応性確認結果～	
2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
3. 南河内のいちご新規就農者育成とブランド確立の取組を視察	
4. 「匠の技 伝道師」によるミニトマト栽培研修会を開催	
II 那賀振興局	3-4
1. クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催	
2. 那賀地方農業士会県外研修会が開催されました	
3. アグリビギナー経営研修会を開催	
III 伊都振興局	5
1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修会を開催	
2. 果樹カメムシ類越冬量調査の実施	
IV 有田振興局	6
1. 「有田みかんシステム」日本農業遺産セミナーを開催	
2. 令和5年度第3回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー 合同研修会を開催	
V 日高振興局	7-8
1. 第15回「日高川町農業祭」が開催される	
2. 高校3年生へ花束を配付～花育活動の実施～	
3. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	9
1. 「農山漁村女性の日のつどい」を開催	
2. 農業士会女性部会がうめの出前授業を実施	
VII 東牟婁振興局	10
1. 那智勝浦町の小学生がブロッコリーの収穫と袋詰めを体験	

Ⅷ 農林大学校	11
1. 卒業論文発表会を開催	
2. 令和5年度農学部卒業式	
Ⅸ 農林大学校就農支援センター	12-13
1. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式	
2. 令和5年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了	
3. 第3回UIターン就農相談フェアを開催	
Ⅹ 経営支援課	14
1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が青年農業者会議を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」の現地適応性確認結果～

地球温暖化にともなう気候変動はみかん作りにも影響を及ぼし、着色遅れや浮皮現象など果実品質の低下が見られるようになっており、浮皮軽減剤の散布などの対策がとられている。しかし、栽培技術だけでなく品種においても対応が求められている。

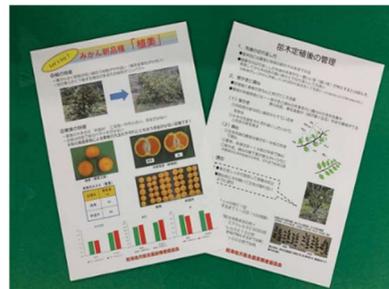
海草地域では、令和3年から地元JAと連携し、海南市下津町で新品種「植美」の適応性の確認を行っている。本年度も4園地で栽培した「植美」を12月13日に収穫し、木箱に入れて2月14日まで土蔵の貯蔵庫で保存。この間の果実品質や貯蔵性、出庫後の食味について調査した。

その結果、現在主力品種の「林温州」と比べて、浮皮が軽微で糖や酸に差はなかった。振興局で実施したアンケート（農業職を除く18名）では貯蔵臭、味変化を少し感じた人もいたが、食味は良好という意見が多数であった。3年間の調査で貯蔵用みかんとして「林温州」より浮皮が少なく、貯蔵性が優れることを確認した。

この結果に基づき、「植美」栽培拡大のためのチラシを作成した。今後、農業士会やJAの研修会等各イベントを通じて啓発を行う。



「植美」の果実調査と貯蔵箱の果実



「植美」の栽培啓発チラシ

2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

2月26日、海南市下津町内の温州みかん園地において「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏による研修会を開催し、新規就農者ら生産者19名の参加があった。

本研修会は主要な作業時期別に開催しており、今回はみかんのせん定作業について行った。研修会では農業水産振興課の萩平普及指導員から今回の研修目的を説明したあと、橋詰氏から実演をまじえて説明が行われた。

橋詰氏からは、「せん定は表年の樹、裏年の樹に合わせて行うこと、東西南北で枝の伸び方が異なるので切り方を変えることが大事」との説明があった。また、肥培管理について、「樹にしっかり食べさせることが重要、売り上げの3割は肥料に使いたい。毎年とれるようになってこそせん定が活きる」との話があり、参加者は熱心に聞き入っていた。



せん定の実演と説明

3. 南河内のいちご新規就農者育成とブランド確立の取組を視察

2月20日、和歌山県地方総合農政推進協議会（構成メンバー：管内各市町、各JA、各農業委員会、県農業共済組合、海草振興局）は、地域の担い手確保などの課題解決のため、先進地視察研修を行った。

大阪府南河内農と緑の総合事務所農の普及課 畑中副主査より「南河内いちごの楽園プロジェクト」の話をついた。普及活動として、いちごアカデミーの開催による新規就農者への技術的支援、ブランドいちご「ちはや姫」の確立支援などを行っており、農の普及課が生産者や町村、JAと協働していちご産地を盛り上げていた。

その後、いちごアカデミー卒業生の「KANSOテクノス」と「ファームランド福永」を視察した。KANSOテクノスは、大規模ハウスで業者向けにいちご栽培をしており、個人農家と販路の住み分けをして産地の担い手となっていた。ファームランド福永の福永氏は最初の新規参加者で、今ではアカデミーの講師として自分の経験を活かして知識や技術をアカデミー受講生に伝えている。

今回の視察を通して学んだことを、新規就農者確保や産地づくりなどの普及活動に活かしていきたい。



普及活動取組の説明



ファームランド福永を視察

4. 「匠の技 伝道師」によるミニトマト栽培研修会を開催

2月22日、海南市高津にある「匠の技 伝道師」西居正憲氏のミニトマト栽培ハウスにおいて、ミニトマト栽培研修会を開催し8名が参加した。研修会では、西居氏から今作の栽培状況と、年間を通しての栽培のポイントについて説明してもらった。今作は、11月の収穫量が平年より少なく、原因は、9月後半に高温が続き、その時期に咲いた花の着果状況が悪かったためとのことであった。年間の栽培ポイントでは、病虫害対策やかん水方法、温度設定などについて説明があった。

参加者から、コナジラミ対策についての質問などもあり、参加者にとって、今後の栽培の参考になるものであった。



栽培研修会の様子

II 那賀振興局

1. クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催

那賀地域では、もも・うめ・すもも等に深刻な被害を及ぼすクビアカツヤカミキリ（以下、クビアカ）対策として、成虫に対する一斉防除の徹底を生産者に呼びかけると共に、幼虫に対してはJ A紀の里や振興局の職員がクビアカフラスの発見通報を受けると現地に赴き、掘り取りを行ってきた。

その結果、被害拡大速度は低く抑えることができています。しかし、今後は生産者自らが掘り取りを行い、自身の園地を守ることが重要であると考え、2月9日、クビアカの被害を受けた園主を対象に、幼虫の掘り取り方法を学ぶ研修会を開催した。

9名の生産者に対して、掘り取り方法の概要説明を行った後、各生産者に掘り取りを実践してもらった。

生産者らは、当初はフラス排出孔の位置が分かりにくい様子であったが、説明を重ね徐々にやり方を覚えてもらい、最終的には幼虫や成虫の脱出口も確認する事ができ、一通り掘り取りを体験してもらうことができた。

農業水産振興課では、今後もクビアカ対策を生産者に伝え、各自が自身の畑を自衛することにより、地域全体としてクビアカの被害を最小限に抑えられるよう支援していく。



説明に聞き入る生産者



掘り取り体験をする生産者

2. 那賀地方農業士会県外研修会が開催されました

2月20日、農業士の資質向上と地域農業のリーダーとしての活動や農業後継者の育成指導に取り組んでいる那賀地方農業士会は、(株)梅の花京都セントラルキッチンと旬の駅京都店で県外研修会を開催した。

京都セントラルキッチンでは所長から当該施設の概要について説明を聞いた後、各担当での作業状況を見学した。会員からは「衛生管理等の取り組みが参考になった」、「同じ食品を扱っている産業として襟を正さないといけない」等の意見があった。

もう一つの旬の駅は、京都府八幡市にある農産物直売所で、府内では規模の大きい店であった。

新型コロナウイルスの影響も一段落し、当課では今後、農業士活動をより活性化させるよう運営を指導していく。



京都セントラルキッチンでの研修会



農産物直売所を見学

3. アグリビギナー経営研修会を開催

2月27日、農業水産振興課では、就農5年目までの新規就農者や4Hクラブ員を対象とした「アグリビギナー経営研修会」を開催し、5名が参加した。

講師にもも農家の宮村康平氏、いちご農家の岩鶴和昭氏を招き、農業を始めた経緯や、経営の安定化のためにこれまで取り組んできたことなどをお話しいただいた。

宮村氏からは、試行錯誤しながらも積極的に人とつながり、新たなものの価値やニーズを生み出していることについての説明があった。

岩鶴氏からは、いちごの品質安定化や、計画的に進めてきた観光農園の取り組みについて話があった。

講師二人からは、農地を借りるためにはまず地域の人に認めてもらうことが大切であること、何事もやる前に計画を立てることが大切であること、また苦手な分野はプロに任せるのも良い、といったアドバイスがあった。

講演後は参加者も自己紹介をし、それぞれ経営に関する悩みを話すなど意見交換を行った。



宮村氏による講演



岩鶴氏による講演

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修会を開催

伊都地方農業士連絡協議会（会長：辻 重光氏）が、2月8日に県外研修会を開催し、会員10名及び振興局担当者が出席した。今年度は、地域ぐるみの獣害対策を学ぶことを目的に、丹波篠山市で獣害対策に熱心に取り組む畑地区を訪問し、防護や捕獲のリアルな現場を見学した。

最初に、特定非営利活動法人里地里山問題研究所の代表理事である鈴木克哉氏から、地域主体の獣害対策について説明が行われ、その後、畑地区自治会長である岡本常博氏の案内で、集落全体を囲む防護柵や ICT 大型捕獲檻の設置状況等を見学した。会員からは、防護柵の設置方法や設置後の見回り、修繕など様々な質問が行われた。

鈴木代表理事は、「獣害対策をきっかけに地域が元気になることを目指している、取り組みには地域で中心になる指導者が必要だが、地域にいなければ外から呼んで来ることも必要」とのポイントを上げられた。

会員からは、和歌山県にも鈴木代表理事に現地訪問・指導しに来て欲しいとの声があった。



現地視察の様子（防護柵）



大型捕獲罠の説明

2. 果樹カメムシ類越冬量調査の実施

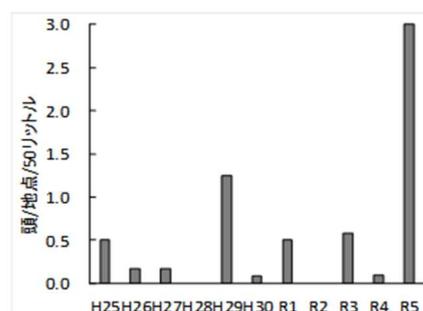
2月9日～28日、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害対策会議（JA紀北かわかみ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、和歌山県農業共済組合、かき・もも研究所、伊都振興局）の関係者が、管内12地点で広葉樹の落ち葉を採集し、越冬中の果樹カメムシ類の種類や頭数を調査した。

その結果、1地点あたりの越冬量は2.9頭であり、平年値の0.2頭（平成25年～令和4年の平均）と比べて14.5倍多かった（グラフ参照）。

これまでの調査では、越冬量の多かった年度の翌年は成虫の発生が多く、被害も多くなる傾向で、令和6年度の成虫の発生量が多くなることが予想されるため、関係機関と協力して早期の防除啓発に取り組む。



越冬量調査の様子



果樹カメムシ類越冬量の年次変動

IV 有田振興局

1. 「有田みかんシステム」日本農業遺産セミナーを開催

日本農業遺産に認定された「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の周知・啓発のため、有田みかん地域農業遺産推進協議会（会長：JAありだ代表理事組合長 森田耕司氏）が2月7日にきびドーム（有田川町）においてセミナーを開催した。

東京大学の八木信行教授が「農業遺産制度の活用事例と有田みかん地域への期待」と題して、農業遺産認定地域の活動事例や世界農業遺産認定に向けた助言など講演を行った。また、有田みかんブランドの維持・発展に向け農研機構の岩崎光徳上級研究員が「温州みかんの新しい高品質果実生産技術～シールディング・マルチ栽培（NARO S. マルチ）～」、果樹試験場宮井良介主査研究員が「温州みかん新品種‘あおさん’の紹介」と題して講演を行った。

有田管内の農業士、生研グループ、4Hクラブ、JA生産者ら約200名の参加があり、参加者らは熱心に聞き入った。農業水産振興課では、今後も協議会の活動を支援するとともに農業遺産制度を活用したPR等につなげていく。



八木教授の講演



新品種‘あおさん’の試食

2. 令和5年度第3回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

2月26日、有田管内の女性農業者と5年以内に就農した農業者を対象とした合同研修会を有田中央高校ほ場において開催した。8名の参加があり、第一部は「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏を講師に迎え、今春の着花予測や今後の樹形を見据えた温州みかんのせん定について実演も交えながら研修を行った。参加者からは「自園地では、老木化が進んでも更新のために思い切ったせん定ができていないが、どうしていきべきか」などと質問があり、講師が丁寧に答えていた。

第二部は農作業安全対策研修として、刈り払い機、脚立使用時の事故防止について、当課の城村普及指導員が講師となり研修を行った。参加者からは「作業に慣れたことで、油断することもあるので常に気を引き締めたい」等の感想があった。



参加者の整枝を指導する佐原氏



農作業事故について講義を行う普及指導員

V 日高振興局

1. 第15回「日高川町農業祭」が開催される

2月11日、日高川町農業振興協議会（会長：松井利郎氏）主催で、「日高川町農業祭」が南山若者センターで4年ぶりに開催された。今回は、内容が大幅にリニューアルされ、町内の農産物のPRに主眼をおいた農業祭となった。

当日は、町内の新鮮な野菜やくだものを扱った飲食店ブースや軽トラ市・JA産直部会による農産物販売、茨城県のれんこん農家である野口憲一氏による講演会、狩猟シミュレーター体験等の催しが行われた。

日高川町4Hクラブでは、町内のさつまいもを使った“石焼き芋”の販売を行い、購入者からは「ねっとりとして、おいしい」と好評であった。

また、今回初開催の「農産物コンテスト」では、町内の生産者が手塩にかけた自慢の農産物や加工品が計114点展示され、その中からグランプリが選出された。



4Hクラブによる石焼き芋販売



「農産物コンテスト」での展示風景

2. 高校3年生へ花束を配付～花育活動の実施～

2月29日、日高地方花き連合会（会長：假家 誠氏）が主催で、日高地方の高校の卒業生を対象に花束の贈呈が行われた。御坊市と印南町の花き生産者から提供された1,200本を超える切り花で花束を作り、日高高校、日高高校中津分校、紀央館高校、南部高校、南陵高校の代表生徒に手渡した。

紀央館高校では、卒業式の予行演習中に花束の贈呈式が開催され、「思うようにいかない時も前向きに頑張ってほしい」という会長からのメッセージとともに花束が贈られた。卒業生は、「豪華な花束をありがとうございます」と返答していた。



御坊市と印南町から集まった切り花



紀央館高校での花束贈呈式の様子

3. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催

日高地方農業士会女性部会（部会長：片山綾子氏）では、女性農業士相互の研さんと親睦を図ることを目的に、毎年各市町持ち回りで現地研修会を行っている。今年度は、2月29日にみなべ町で開催して18名が参加し、地元食材を使った料理講習会とウメ染め体験を実施した。

地元食材を使った料理講習では、神奈川県葉山市在住のフードコーディネーター石光 映美子氏を迎え、「みなべの春」をモチーフにちらし寿司や揚げ物などを作った。参加者からは「いつも使っている食材だが、調理次第でとてもおいしくなった」等の感想が聞かれた。

その後、みなべ町の農業士、二葉美智子氏の指導により、ウメ染め体験を行った。うめの樹皮で作った染液に布を浸漬し、洗浄後干してアイロンをかけてスカーフを仕上げた。浸漬時間で色合いが変化し、参加者たちは感心していた。



地元食材を使った料理講習会



ウメ染め体験

VI 西牟婁振興局

1. 「農山漁村女性の日のつどい」を開催

2月21日、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会、西牟婁地方漁協女性部連合会、西牟婁地方農業士会女性部会で構成する実行委員会（会長：森川敏子氏）主催による「西牟婁地方農山漁村女性の日のつどい」が、亀の井ホテル紀伊田辺（田辺市）において開催され、会員および関係者等55名が参加した。

「生活の見直しを今一度考えよう！」をテーマに、中筋真由美氏（愛と勇気の整理収納アドバイザー）による「ラク♪楽♪整理収納で時間と心にゆとりを！」、県循環型社会推進課 辻本真帆主査による「食品ロスを減らそう」と題した講演があった。

いずれの講演も、よりよい環境で豊かな生活を送るためのヒントがたくさんあった。特に整理収納の講演では、「衣類の処分や仕分けの方法」、「押入れの上手な使い方」など事前に参加者の「困りごとや知りたいこと」を講師に伝えていたので、具体的な提案を聞くことができ、参加者からも「さっそく実践したい」との声が聞かれた。

また、参加者が持ち寄った農水産物や加工品の展示販売も実施され、にぎやかな交流の場となった。



整理収納に関する講演

2. 農業士会女性部会がうめの出前授業を実施

2月26日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：武森直子氏）は、大阪府立東淀川支援学校からの要請を受け、部会員10名が、中学部の生徒23名を対象にうめの出前授業を実施した。

武森部会長の挨拶の後、松場副部会長がパワーポイントを用いて、1年を通したうめの生育状況や管理作業、白干梅ができるまでの工程を説明した。続いて左向部会員が、冷凍梅と氷砂糖を用いたうめシロップの作り方を説明した。生徒たちは部会員指導のもと、シロップづくりに取り組み、出来上がりを楽しみにしている様子だった。

最後に中平部会員が、うめシロップの活用方法として、うめジュース（水割り）、うめラッシー（牛乳割り）、かき氷シロップ等を紹介した。また、梅干しを用いたうめごはんの炊き方なども紹介した。

これまで出前授業は、役員を中心に数名の部会員で行ってきたが、今回未経験の部会員も多く参加したことで、今後さらに活動の幅が広がっていくことが期待される。



うめ産地の1年間を説明

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 那智勝浦町の小学生がブロッコリーの収穫と袋詰めを体験

2月2日、那智勝浦町立勝浦小学校3年生43人は、新宮市佐野でブロッコリーの収穫と袋詰めを体験した。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象に開催している。

児童は、ブロッコリーほ場で山崎達也氏（くろしお熊野やさいグループ会員）から収穫の方法や注意点について説明を受け、山崎氏の指導に従い、傷のない大きな花蕾を探して1個ずつはさみで収穫した。1人あたり3個のブロッコリーを収穫した。

収穫後、児童は新宮公設市場で、自分で収穫した3個のうち、形や大きさの良質なブロッコリー1個を選び袋詰めした。

袋詰め終了後の質問の時間には、児童から山崎氏に「ブロッコリーはどのように料理したら一番おいしいか？」等質問が多くあり、山崎氏は「取れたたと2、3日たったものでは全然味が違う。今日中に料理して食べて」など各質問に丁寧に回答していた。



ブロッコリーの収穫方法の説明



児童からの質問

Ⅷ 農林大学校

1. 卒業論文発表会を開催

2月14日に卒論発表会を開催し、2年生の園芸学科11人とアグリビジネス学科3人の合計14人が2年間の調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、かんきつにおけるシールドイング・マルチ栽培技術やブロッコリーの2花蕾どり栽培の検討、フラワーロス削減に向けた商品開発など多岐にわたった。発表後は審査員長の鈴木農業試験場長らから質問が行われ、学生は時折詰まりながらも懸命に回答していた。

研究テーマの中には複数年にわたって継続するものもあり、今後は現在の1年生が来年の発表に向けて調査や研究を進めていく。



発表の様子

2. 令和5年度農学部卒業式

2月29日、卒業式を挙行之、小畑校長から2年生14名に卒業証書を授与するとともに、成績優秀者に対する表彰では、最優秀者に県知事賞が授与された。

小畑校長は式辞で、学生の2年間の成長を称えるとともに、「過去の自分より成長できるよう失敗を恐れず、新しい物事にチャレンジして欲しい」と激励した。

答辞では、園芸学科の中村匠汰さんが「ここで学び得た知識、技術や思い出を糧に、進む道はそれぞれ違いますが、私たちは夢と目標に向かって、日々努力を重ねていきます」と、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

卒業生の進路は、就農が4名（うち雇用就農3名）、JAグループや農機具メーカー、市場などに就職9名、海外農業研修が1名となっている。



卒業証書授与



卒業生一同

IX 農林大学校就農支援センター

1. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式

2月2日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第2班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。

技術修得研修(第2班)は、10月から2月まで5か月間(計25日)、果樹・野菜・花きなどの栽培管理、病害虫の防除、農業資材・機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけた。

営農計画発表会では、研修生(男女11名)がそれぞれの将来目標（「生産から販売まで総合的に行う農家」、「地域活性化に寄与する農家」、「他品目栽培による経営の安定化」など）や抱負を発表し、意見交換を行った。

閉講式では、研修日程の80%以上出席した研修生に対し、竹中所長から修了証書が手渡され、「本研修で修得した「基礎の部分」を土台にして、自ら勉強し、日々研究し、経験しながら、農業に取り組んでいただきたいと思います」との言葉が贈られた。

今回、修了生のうち7名が就農予定である。



研修生による営農設計発表



所長から研修生へ修了証書

2. 令和5年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了

2月9日、就農支援センターでは、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）の修了式と営農計画発表会を行った。はじめに、修了式では田辺産業技術専門学院の林学院長より、昨年5月から9か月間の研修を修了した9名に修了証書が授与され、お祝いの言葉が贈られた。

続いて営農計画発表会では、就農支援センターでの猛暑の中での実習や農産物の収穫の喜びを思い出しながら、修了生それぞれ将来の目標と、それを実現するための5か年計画についての発表や抱負を語った。

最後に就農支援センター竹中所長から、「講義や実習で学んだ知識と技術を生かし、それぞれの目標が実現できるよう頑張ってください」と励ましの言葉を贈った。

今回、社会人課程修了生9人のうち6人が就農予定である。



修了生への修了証書授与



実習の思い出

3. 第3回UIターン就農相談フェアを開催

2月18日、和歌山県JAビルで第3回UIターン就農相談フェアを開催した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町協議会、わかやま移住定住支援センターなどを含む、13団体15個の相談ブースを設け、県内外から19名の相談者が参加した。相談者からは「農地と家は確保したがぶどう栽培は何処で学べるのか」、「販路はどのように確保するのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、過去に就農支援センターの研修を修了し、田辺市に移住してぶどうを栽培されている方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。

同フェアは来年度も3回（令和6年7月6日、12月1日、令和7年2月22日）JAビルで開催する予定である。



相談ブース

X 経営支援課

1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が青年農業者会議を開催

2月6日、和歌山県4Hクラブ連絡協議会は公益財団法人和歌山県農業公社と共催で、海南 nobinos において青年農業者会議を開催し、県内各地域の4Hクラブ員や農林大学校、農業関係高校生ら106名が参加した。

会議では、4Hクラブ員や学生が、日頃の調査研究活動の成果や自らの経営の成果、目標についてプロジェクト発表及び意見発表を行い、4Hクラブからは合計7課題が発表された。

審査の結果、最優秀賞に有田川町4Hクラブの小川祐司氏、優秀賞にみなべ梅郷クラブの柏木研哉氏、奨励賞に印南町4Hクラブの西山和克氏が選出された。プロジェクト発表と意見発表でそれぞれ最上位となった小川氏と西山氏は、令和7年1月に開催される近畿地域農業青年会議に県代表として派遣される予定である。



スライドを用いたプロジェクト発表



受賞者の記念撮影

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489